



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）

2022 年度事業計画書

（2022 年 4 月 1 日—2023 年 3 月 31 日）

2022 年度の事業計画

2022 年に入り、新型コロナウイルスは一部を除いて下火傾向が継続しており、海外への渡航も徐々に可能になった。2022 年度の活動は前年度からの継続に加え、新たに国際協力機構（JICA）のカンボジアにおける草の根型支援事業（事業費 3 年間で約 1000 万円）が 4 月 1 日に採択され事業開始を 2022 年 11 月予定していること、小規模ながらタイ南部トラン県におけるサゴヤシの保全と有効利用の事業が新たに加わったこと、パプアニューギニア（PNG）で国連 FAO が開始したサゴヤシ栽培と有効利用事業のアドバイスを依頼されていること、などの理由で、過去 3 年間に蓄積された経験を基に、更なる飛躍と社会貢献を目指した充実した事業年度になることが予想されている。2022 年度の収支予測と活動の詳細は以下に記した。

A. 2022 年度収入の部

前年度からの繰越金	923,716 円
社員からの年会費	40,000 円
寄付金	1,850,000 円

2022 年度事業予算（収入推定額の合計）（*）	2,813,716 円

（*）採択された JICA 草の根型支援事業費（2022 年度予算の推定額約 300 万円を含まず）

B. 2022 年度支出の部 （予定 ー事業の進行状況により多少の変更あり）

1. タイ北部山岳民族への収入と生活向上支援	1,700,000 円
2. カンボジア小規模農民グループへの自活支援	300,000 円
3. バングラディッシュへの小規模農民への支援	0 円
4. タイ南部サゴヤシ林の保全と有効利用	300,000 円
5. その他の活動	150,000 円
6. 予備費及び事務経費	363,716 円

2022 年度事業支出（推定額）の合計	2,813,716 円

2022年度の活動の詳細

1. タイ北部山岳民族への収入と生活向上支援

チェンライ県の山岳部に位置するアカ族の村メーチャンタイタイ村が村の全戸が参加し、自主的に立ち上げた農業生産者組合の自助努力への支援を継続する。2021年度は当法人が2020年度に寄贈したコーヒー豆の焙煎機と脱穀機使用によるコーヒー豆加工のサービス料を利用者（村人）から徴収することで村のコミュニティ基金が設立され、村の福祉事業や公共利用に利用された。本年度は、この重要な取り組みを更に充実させ、基金の増額と有効利用を即す為のモニターやアドバイスを提供する。その一方、昨年まで村人が高い手数料で外部の民間会社に豆の質やサイズを揃える選別を委託していたことから、その出費を軽減するために村の要望によりコーヒー豆の選別機（ソーター）を購入しての寄贈する方向で考えている。しかし、援助漬けにならない様に、そして自助努力を100%のレベルまで高めるのに段階的に村の負担を増やすことを考慮する。脱穀機は村人ほとんど全員が使用して、それによる使用料収入が村のコミュニティ基金の積み立てに大きく貢献しているが、焙煎機の方はそれを使用しているのが村人の3分の一ぐらいで、当初の予定を大きく下回っている。こうした理由で村のコミュニティ基金はまだ独り立ちできるレベルまで達しておらず、その為にも、もう一つ、村人の大半が使用するソーターを提供してコミュニティ基金の自力拡大の基盤をつくる狙いも、ソーター購入を考えている大きな理由の一つである。全額を寄贈するのではなく、7-3或いは6-4ぐらいの比率で当法人と村で共同負担することにより、無理のない範囲で段階的に村の負担を増やし、コミュニティ基金の貯蓄額が年に150,000バーツレベルになり独り立ち出来る様に基礎をつくる手助けをすることを課題にしたい。1年目（2021年度）は脱穀機と焙煎機使用料徴収による総額187,000バーツの収入があり、そのうち機械の維持費やオペレーターの給与、公共事業への支出を引いて、基金には87,000バーツ残ったことを考えると、ソーターによる使用料徴収を加えることで、一年間に100,000-150,000バーツ位のコミュニティ基金を貯蓄し、前年度からの残額に上積みすることはそれほど無理ではないと思われる（ソーターは焙煎機や脱穀機同様、利用者からサービス料・使用料を徴収し、それを村のコミュニティ基金に加えて基金の更なる充実を計る）。

他方、事業運営委員会で指摘された村人のコーヒーの焙煎技術を高める必要が生じているため、寄贈した焙煎機の利用能力を高め、焙煎技術向上の為にトレーニングを焙煎機の販売元の協力で8月頃に実施する。

また、専門家による各種コーヒー技術向上の為にグループトレーニングも継続する。

毎回、高い評価を受けているメーチャンタイ村へのボランティアツアーやスタディーツアーを参加者 20 人程度を目安に 2022 年 8-9 月或いは 2023 年 1 月のコーヒー豆摘み取り時期に実施する。可能ならば年に 2 回開催することを考慮する。実施のタイミングについては、新型コロナウイルスの状況を見極めて流動的に決める事とする。

前年度に続き、メーチャンタイコーヒーの日本への宣伝や販売ルート発屈の為、コーヒー豆（主として生豆）のサンプルを、将来購入してくれるポテンシャルの高い日本の組織や会社に配布する予定である。現在、ホテル・サクラフルーレ青山と三洋紙業（株）、そしてまだ未定だが静岡新聞社などと日本へのコーヒー豆の輸出や販売を含めた試験的な活動や話し合いをおこなっている。

それぞれの具体的な活動予算の内訳は以下である。

➤ コーヒー豆選別機（ソーター）購入費	300,000	パーツ
➤ 焙煎技術トレーニング費用	80,000	パーツ
➤ ボランティア・スタディーツアー費用	30,000	パーツ
➤ 村で開催される事業運営委員会参加旅費、その他	20,000	パーツ
➤ コーヒー豆サンプル代金及び輸送費	30,000	パーツ
計	400,000	パーツ

2. カンボジアの小規模農民グループへの支援事業

2021 年度に JICA に提案した“小規模農民グループの自発と自助努力による収入と生活レベルの向上支援事業”は本年 4 月に JICA に草の根型支援事業（3 年間で総額約 10,000,000 万円）として採択され、当法人はその実施を委託された。JICA との契約が交わされ、事業予算が下りて正式に事業を開始するのは 2022 年 11 月頃を想定しているが、それまでの準備期間にカンボジアの現地（シエムリアップ）に行き、カウンターパートの FNN や受益者である 4 つの農民グループと事業に関する見直しや調整をする必要がある。また、地方政府の行政事務所や JICA 事務所、大使館・領事館などへの説明や挨拶も兼ねて 6 月に 5 日間ほどカンボジアを訪問する。また、必要に応じて 2 回目の現地訪問を 9 月頃に実施することを考慮する。こうした費用は、事業開始前の為 JICA 事業費から捻出されない為、当法人の予算でカバーする。バンコクからの航空賃、宿泊費、現地国内交通費等の概算は以下である。また、JICA 予算でカバーできない耐久資材（卵の孵化機や飼料調整機など）などを当法人の予算で購入し、各農民グループに無償供与する予定である。

▶ バンコクからの航空賃、宿泊費、現地国内交通費等	100,000 円
▶ 耐久資材（卵の孵化機や飼料調整機など）購入費	200,000 円

3. バングラデッシュの小規模農民への支援

この活動は一般社団法人シェア・ザ・プラネットの事業に対する技術支援で、2022 年半ばから後半（時期に関しては調整中）にかけてバングラデッシュの現地在を 1 週間ぐらいの予定で訪問する。費用はシェア・ザ・プラネットから提供されるため当法人の予算に加えられていないが、将来、当法人の予算で支援可能な活動の発屈も行う。

4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と有効利用

タイ・トラン県をベースに活動する環境 NGO の草分け的存在で、サゴヤシの保全とサゴヤシによる村落開発運動を長年継続してきたヤドホン財団との協力の下、小規模農家の農地にゴヤシの苗木を植林し、サゴヤシ植生地を増やし、コミュニティレベルにおけるサゴヤシ林の保全と有効利用、そしてそれによる環境保護と農家の収入向上の活動を行うことで合意した。合意書は 3 月 31 日に調印され、6 月から 12 月までの期間で実施される。この予算（43,000 バーツ）は既に 2021 年度の事業費で前渡金として計上された（詳細は 2021 年度事業報告書を参照）。2022 年 12 月以降のこの活動の継続の為、暫定的に 300,000 円を予算として計上した（具体的な活動や必要経費の詳細は、現行の合意書に記載された活動の進行状況や見直し、そしてヤドホン財団や農民達との協議に基づき 2022 年後半に作成される）。

▶ サゴヤシ林の保全と有効利用	80,000 バーツ（300,000 万円）
-----------------	------------------------

5. その他の活動及び事務経費

その他の活動として、以下の予算を暫定的に計上した。

- 第 10 回持続可能な科学技術統合国際会議協賛費 20,000 バーツ

 - 食料ロス削減事業支援費 20,000 バーツ

 - 共回事務経費、その他 60,000 バーツ
-